




日本原子力発電株式会社
敦賀事業本部 敦賀総合研修センター

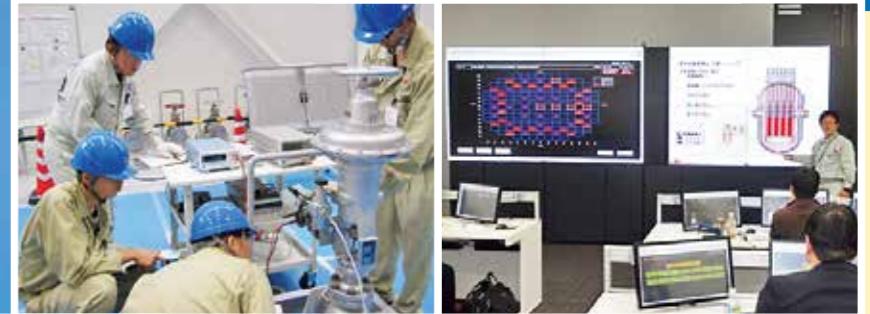
〒914-0823 福井県敦賀市沓見 165 号9番地 6
TEL : 0770-21-9700
FAX : 0770-21-9726 (研修申込み専用)
FAX : 0770-21-9725
メールアドレス : tsuruga-tr-center@japc.co.jp
ホームページ : <https://www.japc.co.jp/tsuruga/tsuruga-training/index.html>
(応募要領はHPからもご覧いただけます)

げんでん 研修 検索 

2026.1

2026年度

公開研修コース ご案内



 日本原子力発電株式会社

敦賀事業本部 敦賀総合研修センター

ご案内

敦賀総合研修センター（以下、当研修センター）は、2012年10月の開設当初から原子力施設や人材育成機関が集積している福井県の特徴を活かし、福井県「嶺南Eコスト計画」に基づき、関連する機関や団体などとも連携し、高度で充実した研修を提供しております。

この研修の一環として、原子力の安全確保の観点から人材育成の更なる充実を図るために、弊社の社員向け研修だけではなく、国内の技術者や学生、また海外からの研修生など、さまざまな方を対象とし、机上研修と実習を組み合わせた体系的な「公開研修コース」を開催しています。

この公開研修コースは、原子力に係る広範囲な知識の習得と技能の向上を図ることを目的として、下記の特徴を有する様々なコースを開催しておりますので、皆様方のお役に立つことができれば幸いです。

なお、遠方からお越しいただく方は、宿泊料金無料で当研修センターの宿泊施設をご利用いただけます。

日本原子力発電株式会社
敦賀事業本部
敦賀総合研修センター

目次

● 2026年度における募集コース一覧 1~8

| 原子力専門技術 | 原子力周辺技術 |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 安全文化コース | 16. ヒューマンファクターコース |
| 2. 原子力安全基礎コース | 17. リスクコミュニケーションコース |
| 3. 確率論的リスク評価コース | 18. 根本原因分析手法コース |
| 4. 原子力鋼材コース | 19. 労働安全衛生コース（実習） |
| 5. 耐震安全コース | 20. 現場管理コース |
| 6. 原子炉施設廃止措置コース | 21. 低圧開閉装置メンテナンスコース（実習） |
| 7. 原子炉施設廃止措置工事学習コース（実習） | 22. 無停電電源装置メンテナンスコース（実習） |
| 8. 原子炉施設廃止措置プロジェクト管理コース | 23. 計測制御装置メンテナンスコース（実習） |
| 9. クリアランス入門コース | 24. ポンプメンテナンスコース（実習） |
| 10. 原子燃料コース | 25. 弁メンテナンスコース（実習） |
| 11. 原子力エネルギーコース | 26. 支持構造物メンテナンスコース（実習） |
| 12. 原子力新技術コース | 27. 配管補修工法コース（実習） |
| 13. 原子力入門コース | 28. 溶接技術コース（実習） |
| 14. 放射線管理入門コース | 29. 振動診断コース（実習） |
| 15. プラントシミュレータコース | 30. 安全体感コース（実習） |

いずれも、日本語によるコースとなっています。
(実習)のコースは、作業服への着替えが必要な研修となっています。更衣室に作業服を備え付けていますので、必要な方はご利用ください。

- 研修スケジュール 9~10
- 施設の概要 11
- 研修お申込み手続きのご案内・受講申込書
- アクセスマップ 12

◎敦賀総合研修センターが実施する公開研修コースの特徴◎

- ① 原子力発電所の概要や放射線管理の基礎、あるいは設備保全の基礎などの学習ができます。
- ② 下記のような様々な設備を使い発電所の仕組みや安全確保の重要ポイントを体感、実習により学ぶことができます。

原子力発電教育シミュレータ

解析ソフトを使用し原子力プラントの挙動を模擬することができる「原子力発電教育シミュレータ」



保修訓練設備（ループ設備）

実動するポンプや弁により構成されダイナミックな流体の流れを再現できる設備



安全体感設備

高所・回転体・玉掛け・電気などの作業上に潜む危険を実際に体感できる「安全体感設備」



| 公開研修コース | | コース概要 | カリキュラム | 定員 ^{注1} (人/回) | 回数 ^{注2} | 研修開始日 | 研修期間 | 申込期限 | 受講料(円) (消費税込) | |
|---------|------------|---|--|---------------------------|------------------------------|--------|--------------------------|--|------------------|--|
| ① | 安全文化コース | 原子力産業界が取り組んでいる安全確保を最優先とする安全文化の醸成について、企業倫理・技術者倫理や不祥事・トラブル事例などを題材として学びます。 原子力利用に携わるすべての組織の方はもちろんのこと、企業による不祥事やトラブル事例が後を絶たない昨今の国内外事情に鑑みて、一般の方への受講もお薦めします。 | 【1日目】 (PM) (1) - 1 安全文化の概念：安全文化とは 【2日目】 (1) - 2 安全文化の概念：安全文化醸成の取組み (2) 企業倫理とコンプライアンス・不祥事の防止に向け (3) 技術者倫理とは (4) 過去の不祥事・トラブル事例 | 15 <7> | ① 2026/09/17 ② 2027/01/18 | 1.5 日間 | 2026/08/07 2026/12/09 | 25,300 | | |
| | | | | | | | | | | |
| ② | 原子力安全基礎コース | 原子力発電所に関する最新の規制体系、基準を理解するとともに、安全確保の仕組み(安全設計)や事故・トラブル時の評価(安全評価)及び過酷事故時の対策など、原子力の安全に係る事項を学びます。 なお、受講者は初步的な原子力発電所の知識を有していることが望ましい。 *2日間のコースですが、1日単位の受講も可能です。 | 【1日目】 概論 (1) 原子力安全確保の基本的な仕組み (2) 原子力安全に関する法令と改正の概要 (3) 原子力発電所の安全設計及び安全評価 | 15 <7> | ① 2026/07/14 ② 2027/01/13 | 1 日間 | 2026/06/04 2026/12/04 | 2日間 38,500 (1日目:19,250) (2日目:19,250) | | |
| | | | 【2日目】過酷事故対策 (AM) (4) 過酷事故の概要 (5) 原子力発電教育シミュレータを用いた過酷事故象の観察 | | | | | | | |
| | | | 【1日目】 (1) 確率論的リスク評価の概要 (2) リスク情報の活用意義と活用動向及び確率の基礎理論 (3) 確率論的リスク評価の手法 | 8 <5> | ① 2026/07/07 ② 2026/11/25 | 2 日間 | 2026/05/28 2026/10/16 | | 29,700 | |
| | | | 【2日目】 (4) PRAツール実習 (5) PRA結果と国内外リスク情報活用事例の紹介 | | | | | | | |
| ④ | 原子力鋼材コース | 原子力発電所における、様々な事故の発生頻度を確率論的に求め、そのリスクを評価します。この研修では、確率論的リスク評価(PRA)の基礎知識や具体的な評価手法を学びます。 なお、受講者は初步的な原子力発電所の知識を有していることが望ましい。 *2日間のコースですが、1日単位の受講も可能です。 | 【1日目】基礎 (1) 原子力鋼材の基礎 (2) 原子力発電所の構造材料 (3) 高経年化プラント材料の劣化と健全性評価 | 15 <7> | ① 2026/08/26 ② 2027/02/17 | 1 日間 | 2026/07/17 2027/01/08 | 2日間 46,200 (1日目:23,100) (2日目:23,100) | | |
| | | | 【2日目】応用 (4) 原子力発電所構造材料のふるまい 製造、建設及び運転開始以降のトラブルと対応 (溶接、腐食、SCC、疲労等) (5) トラブル(不適合)調査 調査方法と事例、調査演習 | | | | | | | |
| | | | 【1日目】耐震基礎、建築・土木構造物の耐震設計及び機電構造物の耐震設計 (1) 耐震設計概論 (2) 地震・地震動 (3) 地震動応答解析／建築の耐震設計 (4) 地盤及び斜面の安定性評価／屋外重要土木構造物の耐震 (5) 機器などの耐震設計／耐震重要度分類 他 | 15 <7> | ① 2026/07/08 ② 2027/01/20 | 2 日間 | 2026/05/29 2026/12/11 | | 39,600 | |
| | | | 【2日目】機電構造物の耐震設計(続き) (6) 機器・配管、電気計装品の耐震設計 他 | | | | | | | |
| ⑤ | 耐震安全コース | 耐震設計の基礎(概論、地震動、新規制基準など)、原子力発電所の建築、土木構造物の耐震設計及びポンプ・容器・配管並びに電気盤などの耐震設計を学びます。 なお、受講者は地震・耐震に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。 | 【1日目】 (1) 耐震設計概論 (2) 地震・地震動 (3) 地震動応答解析／建築の耐震設計 (4) 地盤及び斜面の安定性評価／屋外重要土木構造物の耐震 (5) 機器などの耐震設計／耐震重要度分類 他 | 15 <7> | ① 2026/08/06 ② 2027/02/03 | 2 日間 | 2026/06/26 2026/12/25 | 27,500 | | |
| | | | 【2日目】 (5) 敦賀発電所1号機耐震措置対象施設見学 (6) 廃止措置実務経験者との意見交換 | | | | | | | |

注1 < > 内は最少開催人数

注2 ①②③のいずれの回も研修内容は同じです。

| 公開研修コース | | コース概要 | カリキュラム | 定員 ^{注1} (人/回) | 回数 ^{注2} | 研修開始日 | 研修期間 | 申込期限 | 受講料(円) (消費税込) |
|---------|----------------------|--|--|---------------------------|------------------|------------|-------|------------|------------------|
| 7 | 原子炉施設廃止措置工事学習コース | 原子力発電所構内において、廃止措置工事に初めて従事する上で必要な発電所ルールの概要、技量や手法、工事要領検討について講義と実習により学びます。 | 【1日目】 (1) 発電所ルールの概要（講義） ・発電所構内ルール、放射線管理、汚染拡大防止、労働安全衛生マネジメントシステム (2) 現場作業上必要な技量・手法（講義／実習） ・解体廃棄物の区分、混在防止の重要性、NR／クリアランス 他 (3) 工事要領検討（実習） | 15 <7> | ① | 2026/08/25 | 1.5日間 | 2026/07/16 | 23,100 |
| | | | 【2日目】 (AM) (4) 敦賀発電所1号機廃止措置工事対象施設見学 | | ② | 2027/03/03 | 1.5日間 | 2027/01/22 | |
| 8 | 原子炉施設廃止措置プロジェクト管理コース | 廃止措置の特徴の把握として、廃止措置に関する法令関係、および国内外の廃止措置の実例・特徴を解説します。 廃止措置の基本安全への理解として、IAEA「General Safety Requirement (GSR)」や日本原子力学会「原子力施設の廃止措置の基本安全基準（学会標準）」について解説します。 廃止措置プロジェクト管理手法の習得として、ISO-21500（プロジェクトマネジメント手引き）について実習を含めて解説します。 | 【講義】 廃止措置の目的、廃止措置の概要、廃止措置の基本安全、廃止措置の方策、グレーティッドアプローチ、廃止措置のプロジェクト管理、廃止措置の課題、廃止措置の国内外の現状 【プロジェクト管理実習】 管理スキルとして、長期間で管理を必要とする廃止措置をISO21500「プロジェクトマネジメント国際標準」に当てはめたグループディスカッション | 20 <10> | ① | 2026/07/27 | 5日間 | 2026/06/17 | 77,000 |
| 9 | クリアランス入門コース | 原子炉施設の廃止措置などに伴い、「放射性廃棄物として扱う必要がないもの（クリアランス）」が多く発生します。それらの概念やクリアランス測定方法などクリアランスに関する基本的な知識を学びます。 | (1) クリアランスの概念と関係法令、クリアランス対象物の管理方法 (2) クリアランス測定・判断の概要 (3) 発電所の専用測定装置（見学） | 10 <5> | ① | 2026/07/23 | 1日間 | 2026/06/12 | 24,200 |
| | | | | | ② | 2026/10/29 | 1日間 | 2026/09/18 | |
| | | | | | ③ | 2027/02/04 | 1日間 | 2026/12/25 | |
| 10 | 原子燃料コース | 原子力発電において使用される原子燃料について、ウラン鉱石の採鉱から使用後の処理、処分までの原子燃料サイクルとともに、原子燃料の取扱上、重要な保障措置や使用済燃料の輸送・貯蔵について学びます。 | (1) 原子燃料サイクルの概要 (2) BWR／PWR／FBR燃料の設計 (3) 保障措置 (4) 使用済燃料輸送及び貯蔵対策 | 30 <15> | ① | 2026/07/16 | 1日間 | 2026/06/05 | 17,600 |
| | | | | | ② | 2026/12/16 | 1日間 | 2026/11/06 | |
| 11 | 原子力エネルギーコース | エネルギー資源を海外からの輸入に頼っている我が国の現状を理解し、福島第一原子力発電所の事故後の地球温暖化への対応を含めた我が国のエネルギー政策について学びます。 | (1) 原子力発電所の仕組みと安全対策 (2) 原子力発電と地球環境問題 (3) 世界の原子力発電の状況 (4) 日本のエネルギー政策概要 | 30 <15> | ① | 2026/06/05 | 1日間 | 2026/04/24 | 15,400 |
| | | | | | ② | 2026/12/11 | 1日間 | 2026/10/30 | |
| 12 | 原子力新技術コース | 世界の原子力情勢と今後の展望、次世代炉の開発動向などについて学びます。 なお、受講者は初步的な原子力発電の知識を有していることが望ましい。 | (1) 原子力発電を取巻く世界の情勢と今後の展望 (2) 現行の発電用原子炉の概要と次世代炉の開発動向 | 15 <7> | ① | 2026/05/19 | 1日間 | 2026/04/09 | 20,900 |
| | | | | | ② | 2026/10/15 | 1日間 | 2026/09/04 | |
| 13 | 原子力入門コース | 原子炉での核分裂など原子力発電の基本的原理を理解するとともに、原子力発電所で使われる代表的な機械設備と電気設備の概要などを学びます。 核分裂や連鎖反応など、原子力発電の概念を学びたい方にお薦めします。 | 【1日目】 (1) 原子炉物理、燃料の基礎知識や原子力発電所の仕組み (2) 原子力発電教育シミュレータによる原子炉出力制御や原子炉緊急停止などの実習 【2日目】 (3) 原子力発電所の機械設備と電気設備の概要 | 12 <7> | ① | 2026/06/02 | 2日間 | 2026/04/23 | 25,300 |
| | | | | | ② | 2026/12/08 | 2日間 | 2026/10/29 | |
| | | | | | ① | 2026/05/28 | 1日間 | 2026/04/17 | |
| 14 | 放射線管理入門コース | 放射線・放射能に関する基礎知識や各種放射線測定器の原理と測定方法などについて、講義と実習により基本的なことを学びます。 | (1) 放射線・放射能の基礎知識 (2) 放射線測定の基礎知識 (3) 放射線防護、放射線管理に関する基礎知識 (4) 線量当量率の測定実習 (5) 表面汚染密度の測定実習 (6) ダスト濃度の測定実習 | 8 <5> | ② | 2026/11/05 | 1日間 | 2026/09/25 | 28,600 |

注1 < > 内は最少開催人数

注2 ①②③のいずれの回も研修内容は同じです。

| 公開研修コース | | コース概要 | カリキュラム | 定員 ^{注1} (人/回) | 回数 ^{注2} | 研修開始日 | 研修期間 | 申込期限 | 受講料(円) (消費税込) |
|---------|-----------------|--|---|---------------------------|------------------|------------|------------|------------|--|
| 15 | プラントシミュレータコース | <p>原子力発電教育シミュレータを用いて、加圧水型軽水炉(PWR)と沸騰水型軽水炉(BWR)を比較しながらプラント起動操作や原子炉出力変更などの運転操作を模擬体験するとともに、原子力発電所の安全確保の仕組みを学びます。</p> <p>*2日間のコースですが、1日単位の受講も可能です。</p> | <p>【1日目】PWR編 (1) PWRの主要系統・設備の概要 (2) 原子力発電教育シミュレータによるPWRの原子炉臨界操作、原子炉出力制御、原子炉緊急停止などの実習</p> <p>【2日目】BWR編 (3) BWRの主要系統・設備の概要 (4) 原子力発電教育シミュレータによるBWRの原子炉臨界操作、原子炉出力制御、原子炉緊急停止などの実習</p> | 8 <5> | ① | 2026/08/25 | 1日間 | 2026/07/16 | 2日間 59,400 (1日目:29,700) (2日目:29,700) |
| | | | | | | ② | 2027/01/27 | 2026/12/18 | |
| | | | | | ① | 2026/08/26 | 1日間 | 2026/07/16 | |
| | | | | | | ② | 2027/01/28 | 2026/12/18 | |
| | | | | | | | | | |
| 16 | ヒューマンファクターコース | <p>どんなに優秀な人でもヒューマンエラーから逃れることができません。人間の特性を知り、エラーを防ぐ対策を講じることが大切です。本研修ではヒューマンファクターの基礎的知識(人間の基本特性や集団特性など)を理解するとともに、作業時のヒューマンエラーの防止方策を学びます。</p> <p>ヒューマンエラーとは人に起因する誤りのことであり、人為ミスとも呼ばれます。誰もが起こす可能性があるヒューマンエラーの防止方策を学ぶことはとても有益です。広く一般の方にもお薦めします。</p> <p>*2日間のコースですが、1日単位の受講も可能です。</p> | <p>【1日目】基礎 (1) ヒューマンファクター(HF)とは/ ヒューマンエラー(HE)とは (2) 人間の特性 (3) 集団の特性</p> <p>【2日目】管理・事例 (4) HEを減らすための工夫 (5) 管理について (6) 安全活動の実際</p> | 15 <7> | ① | 2026/06/03 | 1日間 | 2026/04/24 | 2日間 24,200 (1日目:12,100) (2日目:12,100) |
| | | | | | | ② | 2027/03/03 | 2027/01/22 | |
| | | | | | ① | 2026/06/04 | 1日間 | 2026/04/24 | |
| | | | | | | ② | 2027/03/04 | 2027/01/22 | |
| | | | | | | | | | |
| 17 | リスクコミュニケーションコース | <p>リスクコミュニケーションとは、リスクに関する情報や意見を関係者間で交換し、その問題の理解を深め、お互いの信頼を醸成することを通じて、より良い決定を目指すコミュニケーションです。この研修では、専門家による講義やロールプレイング(役割演技)、参加者同士の意見交換を通じて、リスクコミュニケーションの方法やあり方を学びます。</p> <p>また、当社が実践している双方向コミュニケーションの事例もご紹介します。</p> <p>リスクコミュニケーションの手法は、環境や食品安全などの分野で実践されており、原子力に限らず、多くの分野でも非常に有益です。そのため、広報業務に携わっていない方、技術者の方、他産業の方、学生の方にも広くお薦めします。</p> | <p>【1日目】 (1) リスクコミュニケーションの概要 ・講義(リスクコミュニケーションとは、リスクコミュニケーションの歴史・目的、リスクとは、原子力に係る動向) (2) 双方向コミュニケーションの概要 ・講義(当社における実践事例)</p> <p>【2日目】 (3) ロールプレイング(役割演技)</p> | 24 <12> | ① | 2026/12/03 | 2日間 | 2026/10/23 | 18,700 |
| | | | | | | | | | |
| 18 | 根本原因分析手法コース | <p>事故やトラブルの原因分析に使われる S A F E R (Systematic Approach For Error Reduction) を理解し、問題の根本的な原因を明らかにする手法を学びます。</p> <p>本コースで学ぶ手法は原子力産業の現場だけでなく、一般産業のあらゆる場面でも活用できます。</p> | <p>【1日目】(PM) (1) 根本原因分析概論 (2) 不適合事象の時系列作成</p> <p>【2日目】 (3) 不適合事象の問題点の抽出と背後要因図の作成 (4) 不適合事象の再発防止対策</p> | 15 <7> | ① | 2026/06/24 | 1.5日間 | 2026/05/15 | 49,500 |
| | | | | | | 2026/10/09 | | | |
| 19 | 労働安全衛生コース | <p>従業員や作業員を災害から守るために労働安全衛生法の基礎知識及び安全管理の手法の一つである労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)について学びます。また、現場作業をリスクアセスメント手法に基づき疑似体験することにより安全意識の向上を目指します。</p> <p>本コースは原子力発電所の作業現場に限らず、一般作業現場においても有益な研修です。</p> | <p>【1日目】 (1) 労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS) (2) 労働安全衛生関係法令</p> <p>【2日目】 (3) 災害事例に基づく原因と対策 (4) 労働安全衛生マネジメントシステムに係るリスクアセスメント手法を用いた現場作業の疑似体験</p> | 15 <7> | ① | 2026/07/06 | 2日間 | 2026/05/27 | 23,100 |
| | | | | | | 2026/10/21 | | | |
| 20 | 現場管理コース | <p>現場作業で必要となる労働安全・設備安全を確保するために必要な管理技術について、日常的に実践で役立つ事項及び異常時の措置方法などを学びます。</p> <p>本コースは原子力発電所の作業現場に限らず、一般作業現場においても有益な研修です。</p> | <p>(1) 現場管理の基本 (2) 工事計画から工事結果の評価まで (3) 作業中における監督及び指示方法 (4) 現場管理でのトラブル事例と異常時の措置(不適合管理) (5) 教育・指導</p> | 15 <7> | ① | 2026/05/21 | 1日間 | 2026/04/10 | 14,300 |
| | | | | | | 2026/08/21 | | | |
| 21 | 低圧開閉装置メンテナンスコース | 発電所や工場などの配電盤に使われている低圧開閉装置の仕組み、動作や点検方法について学びます。 | <p>【1日目】 (1) 低圧開閉装置に関する基礎知識 (2) 配電盤(コントロールセンター)に使われている配線用遮断器、電磁接触器、サーマルリレーなどの低圧開閉装置の仕組み、動作や点検方法</p> <p>【2日目】 (3) 配電盤(パワーセンター)に使われている気中遮断器などの低圧開閉装置の仕組み、動作や点検方法</p> | 4 <2> | ① | 2026/11/19 | 2日間 | 2026/10/09 | 121,000 |
| | | | | | | | | | |

注1 < > 内は最少開催人数

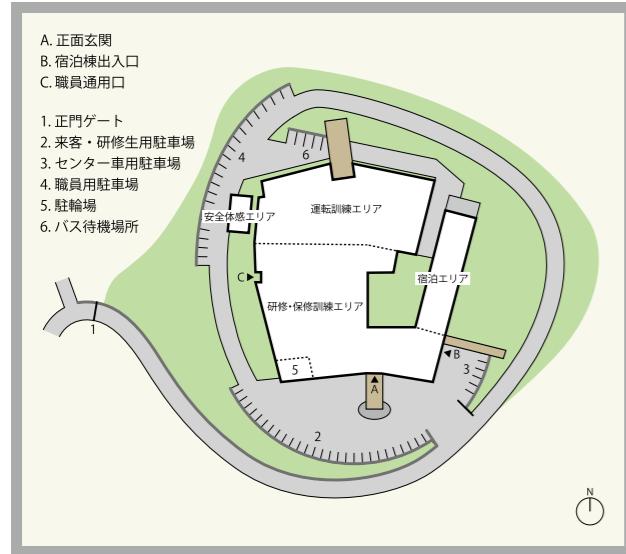
注2 ①②③のいずれの回も研修内容は同じです。

| 公開研修コース | | コース概要 | カリキュラム | 定員 ^{注1} (人/回) | 回数 ^{注2} | 研修開始日 | 研修期間 | 申込期限 | 受講料(円) (消費税込) |
|---------|------------------|---|--|---------------------------|------------------|------------|------|------------|------------------|
| 22 | 無停電電源装置メンテナンスコース | コンピュータやエレクトロニクス機器を落雷・停電による誤動作や停止から守るために設置されている無停電電源装置（UPS）について、システム構成や点検方法などを学びます。 | 【1日目】 (1) 無停電電源装置（UPS）のシステム (2) 蓄電池の原理や点検 【2日目】 (3) 訓練用無停電電源装置を使った運転操作や点検方法の実習 | 4 <2> | ① | 2026/12/15 | 2日間 | 2026/11/05 | 141,900 |
| 23 | 計測制御装置メンテナンスコース | 発電所や工場などで使用されている各種計測制御機器について、原理や構造などを理解するとともに、点検校正の実習や計測制御機器故障の再現などを行い、計測制御保守業務について実践に役立つ基本技能を学びます。 なお、受講者は工業高校卒業程度の知識を有していることが望ましい。 | 【1日目】 (1) 圧力、温度、流量、液位を計測する機器の原理、構造、機能 (2) 圧力、温度、流量、液位を計測する機器の点検、校正の実習 【2日目】 (3) 自動制御の基礎、デジタル制御機器（コントローラ）を用いた実習 (4) トラブル・不具合事例の紹介及びループ設備を用いた各種計測制御機器に係る故障の対処方法体験 | 4 <2> | ① | 2026/09/08 | 2日間 | 2026/07/30 | 136,400 |
| 24 | ポンプメンテナンスコース | 様々なポンプの種類、基本的な構造やトラブル事例などを学習するとともに、一般的に使用されているポンプを用いて、分解・点検・手入れ・組立の実習を行い、ポンプを保守点検する場合の基本的な知識・技能を学びます。 | 【1日目】 (1) ポンプ、シール（メカニカルシールを含む）の原理、種類、構造 (2) ポンプ分解作業の実習 【2日目】 (3) ポンプ点検・手入れ作業の実習 (4) ポンプ組立て作業の実習、試運転の実習 | 4 <2> | ① | 2026/11/11 | 2日間 | 2026/10/02 | 202,400 |
| 25 | 弁メンテナンスコース | 様々な弁の構造、特徴やトラブル事例などを学習するとともに、一般的に使用されている弁を用いて、分解・点検・組立実習を行い、保守点検を実施する場合の基本的な知識・技能を学びます。 | 【1日目】 (1) 各種弁の特徴、構造、機能 (2) 弁のトラブル事例 (3) 玉形弁の分解・点検・組立実習 【2日目】 (4) 仕切弁、逆止弁の分解・点検・組立実習 | 4 <2> | ① | 2026/11/19 | 2日間 | 2026/10/09 | 126,500 |
| 26 | 支持構造物メンテナンスコース | 様々な支持構造物の構造、特徴やトラブル事例などを学習するとともに、一般的に使用されている油圧防振器を用いて、分解・点検・組立実習を行い、支持構造物を保守点検する場合の基本的な知識・技能を学びます。 | 【1日目】 (1) 各種支持構造物の特徴、構造、機能 (2) 支持構造物のトラブル事例 【2日目】 (3) 支持構造物（油圧防振器）の分解・組立実習 | 4 <2> | ① | 2026/09/09 | 2日間 | 2026/07/31 | 133,100 |
| 27 | 配管補修工法コース | 発電所の運転中にも適用できる配管の補修工法について、基準・規格の講義や実習を交え、実践に役立つ基本技能（管理ポイントなど）を学びます。 | 【1日目】 (1) 充填材工法の概要（種類、構造、機能など） (2) 充填材工法の実習 【2日目】 (3) 接着材工法の概要（種類、構造、機能など） (4) 接着材工法の実習 | 4 <2> | ① | 2026/10/07 | 2日間 | 2026/08/28 | 198,000 |
| 28 | 溶接技術コース | 溶接施工の管理能力を向上させるため、溶接技術に関する基本的な知識と実践に役立つ基本技能及び溶接に係るトラブルや不適合事象の事例を学びます。 溶接経験のない方でも基本からお教えします。 | 【1日目】 (1) 各種溶接の施工技術、安全管理、トラブル事例の講義 (2) 平板2枚の突合せ被覆アーク溶接の実習 【2日目】 (3) 平板上でのTig溶接(Tungsten Inert Gas溶接)の実習 (4) 溶接構造物を模擬した溶接の実習(Tig溶接など) | 4 <2> | ① | 2026/09/02 | 2日間 | 2026/07/24 | 122,100 |
| 29 | 振動診断コース | 回転機械の振動診断に必要な基礎知識を習得するとともに、実習を通じて回転機械の振動診断の管理ポイントを学びます。 | 【1日目】 (1) 振動診断の基礎 (2) 簡易診断、精密診断の実習 【2日目】 (3) 振動発生装置を使用しての実習 | 5 <2> | ① | 2026/10/07 | 2日間 | 2026/08/28 | 117,700 |
| 30 | 安全体感コース | 高所作業や玉掛け作業、回転体への巻込まれなど作業の危険性や回転体に潜む危険を疑似体験することにより、安全意識の向上と危険回避能力の向上につながります。 原子力産業に関係する現場の他に一般の工場、工事現場で作業をされる全ての方への受講もお薦めします。 | (1) 高所作業の危険を疑似体感 (2) 玉掛け作業の危険を疑似体感 (3) 補修・点検作業の危険を疑似体感 (4) 火災、電気の危険を疑似体感 | 10 <5> | ① | 2026/06/11 | 1日間 | 2026/05/01 | 26,400 |
| | | | | | ② | 2026/10/27 | 1日間 | 2026/09/17 | |

注1 < > 内は最少開催人数

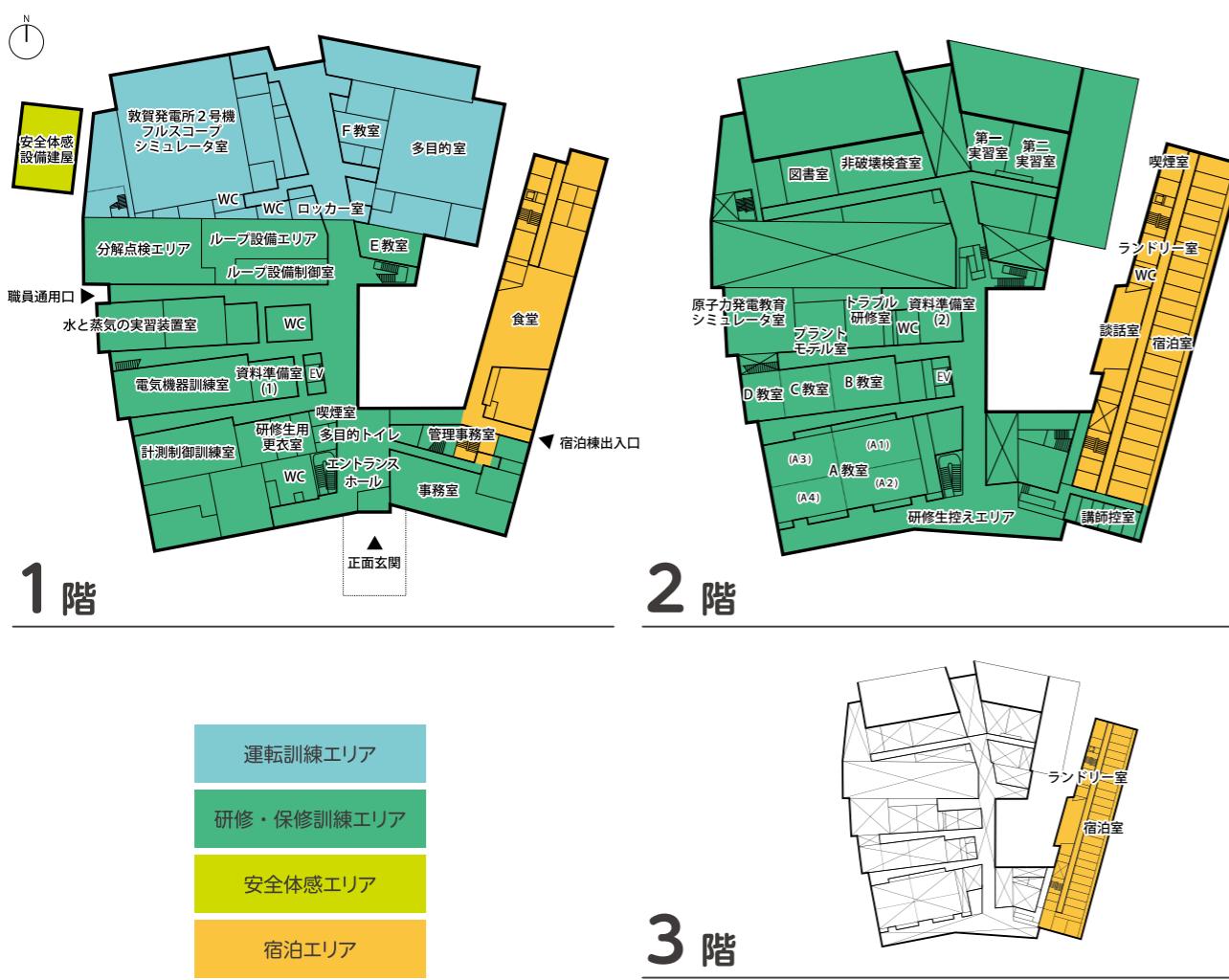
注2 ①②③のいずれの回も研修内容は同じです。

敦賀総合研修センター 施設の概要



| | |
|---------|---|
| 開 設 | 2012年10月1日 |
| 所 在 地 | 福井県敦賀市沓見165号9番地6 |
| 敷 地 面 積 | 28, 556m ² |
| 建 物 構 造 | 鉄筋コンクリート造一部鉄筋鉄骨コンクリート造、鉄骨造 2階建(一部3階建) |
| 建物床総面積 | 約 8, 900m ² |
| 主 要 施 設 | 運転訓練エリア (約1, 900m ²) 研修・保修訓練エリア (約5, 300m ²) 安全体感エリア (約 100m ²) 宿泊エリア (約1, 600m ²) |

建物配置図



アクセスマップ



研修お申込み手続きのご案内

1 お申込み手続きおよびコース受講のお知らせ

- 1) コース毎に「受講申込書」に必要事項をご記入のうえ、当研修センター宛お申込み下さい。なお、学生の方は「受講申込書」に学生証(写)を添付して下さい。(E-mail、FAX又は郵送にてお申込み下さい)
- 2) 各コースのお申込み締め切りは、原則研修開始日の40日前となります。
(郵送の場合、締め切り日当日の消印有効とします)
- 3) 当社HP (<https://www.japc.co.jp/tsuruga/tsuruga-training/index.html>) にて各コースの募集状況が隨時ご確認いただけます。
- 4) 受講のお知らせは、申込期限終了後に下記の書類を連絡ご担当者宛に送付いたします。
申込者ご本人宛：コースの詳細カリキュラムなどの案内文書
所属長宛：研修生受入れのお知らせ(送付要に○をした方のみ)

2 受講料およびキャンセル料

*請求書は開催終了後の発行となります。

- 1) 受講料：コース毎の案内にてご確認下さい。(全コース学生割引適用:2割引)
*学生の方については、研修開催当日に学生証を確認させていただきます。
- 2) キャンセル料：
開催日7日前から2日前まで：受講費用の30%をご負担いただきます。
開催日及び前日：受講費用の全額をご負担いただきます。

3 宿泊施設

宿泊をご希望される方は、当研修センター内の宿泊施設をご利用いただけますので、「受講申込書」によりお申込み下さい。(宿泊料金は無料)

チェックインは15時～20時までとなります。チェックインが20時以降になる場合は事前に宿泊棟管理人(電話：0770-21-9703)へご連絡をお願いします。なお、夕食の提供時間は20時までとなります。
*ご参加される時期、あるいは施設点検等の都合により、ご利用できない場合があります。その際は、ご連絡を差し上げますので、申込み者様側のご負担で宿泊の手配をお願いいたします。

4 食事

食事をご希望される方は、当研修センターの食堂をご利用いただけますので、「受講申込書」によりお申込み下さい。(土日祝日の食事提供はありません)

食事代につきましては個人負担、現金払いのみとなります。

(食事代(税込)は、朝食：330円、昼食：440円、夕食：770円)

5 お申込み・お問い合わせ先

〒914-0823 福井県敦賀市沓見165号9番地6
日本原子力発電株式会社 敦賀事業本部 敦賀総合研修センター
電話：0770-21-9700
FAX：0770-21-9726(研修申込み専用)
メールアドレス：tsuruga-tr-center@japc.co.jp

6 その他

- 1) 各コースとも最少開催人数に満たない場合は、開講されない場合もありますので、あらかじめご了承下さい。開催可否のご連絡は、申込期限終了後(研修開始予定日の30日前まで)にご連絡いたします。
- 2) 日程およびカリキュラムは、都合により変更する場合があります。
- 3) 研修期間中に怪我などの労働災害が発生した場合、当研修センターでは、補償いたしませんので、職場や個人の損害保険に加入しておられない場合は、国内旅行傷害保険などに加入していただきますようお願いいたします。
- 4) 当研修センターでは、研修を受講される方に情報セキュリティ管理の観点から「情報管理に関する誓約書」を研修初日のオリエンテーションにおいて署名、提出いただきますので、ご理解とご協力を願いいたします。なお、署名いただけない場合は、受講をお断りさせていただくこととなりますので、ご了承願います。



受講申込書

1) 本受講申込書に必要事項をご記入の上、弊社 総合研修センターまで、E-mail、FAX又は郵送にてお送り下さい。

2) 各コースのお申込み締め切りは、開催日の40日前です。

3) コース受講のお知らせは、下記の書類を連絡ご担当者宛に送付いたします。

申込みご本人宛：コースの詳細カリキュラムなどの案内文書

所属長宛：受講のお知らせ(送付要に○をした方のみ)

| コース番号 | コース名 | 研修日 |
|-------|------|-----|
| | | ～ |

受講者 ※(*)は必須項目です。

| 一般/企業/学校 | 連絡担当者 ※受講者と同じ場合は、ご記入は不要です | | |
|----------------------------|---------------------------|---------|----|
| ふりがな | | 年齢 | 性別 |
| 氏名(*) | | | |
| 会社名(*) | | 会社名 | |
| 部署名 | | 部署名 | |
| 役職名 | | 役職名 | |
| 住 所(*) | 〒 | 住 所 | 〒 |
| T E L(*) | | T E L | |
| E-mail(*) | | E-mail | |
| F A X | | F A X | |
| 夜間・休日でも連絡が取れる上司等の緊急時連絡先(*) | 氏名： | 携帯電話番号： | |

宿泊施設：いずれかに○をつけてください。

宿泊を(希望します 希望しません)

※宿泊料金は無料です。

★宿泊を希望される方は、下記表に日付を記載し、
申込み箇所に○をつけてください。
(食事代は個人負担となります。)

| 月 日 | 朝 食 | 夕 食 | 宿 泊 |
|-------------|------|------|-----|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 料金(税込(10%)) | 330円 | 770円 | |

昼 食：いずれかに○をつけてください。

昼食を(希望します 希望しません)

★昼食を希望される方は、下記表に日付を記載し、
申込み箇所に○をつけてください。
(食事代は個人負担となります。)

| 月 日 | 昼 食 |
|-------------|------|
| | |
| | |
| | |
| | |
| 料金(税込(10%)) | 440円 |

上記のとおり受講を申し込みます。

(企業・団体などの組織に属さない方の申込の場合は、記入の必要はありません)

申込日 (*)

所属長 会社名 _____

研修生受入れのお知らせの送付
(いずれかに○をお付けください)

役職名 _____

要・否

ご氏名 _____

※1 学生の方は「受講申込書」に学生証(写)を添付ください。

※2 提出いただいた個人情報は、当センター研修業務にのみ利用いたします。